



テナント管理 API

StorageGRID

NetApp
October 03, 2025

目次

テナント管理 API	1
テナント管理 API について理解する	1
API 処理	1
処理の詳細	2
問題 API 要求	3
テナント管理 API のバージョン管理	4
現在のリリースでサポートされている API のバージョンを確認します	4
要求する API バージョンを指定してください	5
クロスサイトリクエストフォージェリ（CSRF）の防止	5

テナント管理 API

テナント管理 API について理解する

Tenant Manager のユーザインターフェイスの代わりにテナント管理 REST API を使用してシステム管理タスクを実行できます。たとえば、API を使用して処理を自動化したり、ユーザなどの複数のエンティティを迅速に作成したりできます。

テナント管理 API :

- Swagger オープンソース API プラットフォームを使用します。Swagger では、開発者でもそうでないユーザでも、わかりやすいユーザインターフェイスを利用して API を操作できます。Swagger のユーザインターフェイスでは、各 API 処理に関する詳細情報とドキュメントを参照できます。
- 使用 [無停止アップグレードをサポートするためのバージョン管理](#)。

Swagger のテナント管理 API のドキュメントにアクセスするには、次の手順を実行します。

手順

1. Tenant Manager にサインインします。
2. Tenant Manager の上部でヘルプアイコンを選択して、* API Documentation * を選択します。

API 処理

テナント管理 API では、使用可能な API 処理が次のセクションに分類されます。

- **account** — 現在のテナントアカウントに対する処理。ストレージの使用状況情報の取得も含まれます。
- **auth** — ユーザセッション認証を実行するための操作。

テナント管理 API では、Bearer トークン認証方式がサポートされています。テナントにログインするには、認証要求（「POST/api/v3/authorize」）の JSON の本文にユーザ名、パスワード、アカウント ID を指定します。ユーザが認証されると、セキュリティトークンが返されます。このトークンは、後続の API 要求（「Authorization : Bearer トークン」）のヘッダーで指定する必要があります。

認証セキュリティの向上については、を参照してください [クロスサイトリクエストフォージェリから保護](#)。



StorageGRID システムでシングルサインオン（SSO）が有効になっている場合は、別の手順による認証が必要です。を参照してください [Grid 管理 API の使用手順](#)。

- *config* — 製品リリースとテナント管理 API のバージョンに関連する操作。製品リリースバージョンおよびそのリリースでサポートされる API のメジャーバージョンを一覧表示できます。
- *containers* — S3 バケットまたは Swift コンテナに対する次の処理。
- S3 *
 - バケットの作成（S3 オブジェクトのロックを有効にした場合と無効な場合）
 - バケットのデフォルト保持設定の変更（S3 オブジェクトロックが有効なバケットの場合）

- オブジェクトに対して実行される処理の整合性制御を設定します
- バケットの CORS 設定を作成、更新、および削除する
- オブジェクトの最終アクセス日時の更新を有効または無効にします
- CloudMirror レプリケーション、通知、検索統合（メタデータ通知）などのプラットフォームサービスの設定を管理します。
- 空のバケットを削除します
- **Swift *** : コンテナに使用する整合性レベルを設定します
- *** deactivated-features *** — 非アクティブ化された可能性のある機能を表示する操作。
- *** endpoints *** — エンドポイントを管理するための処理。エンドポイントを使用することで、S3 バケットは外部のサービスを StorageGRID CloudMirror レプリケーション、通知、または検索統合に使用できます。
- *** groups *** — ローカルテナントグループを管理し、外部アイデンティティソースからフェデレーテッドテナントグループを取得するための処理。
- *** identity-source *** — 外部のアイデンティティソースを設定する処理、およびフェデレーテッドグループとユーザ情報を手動で同期する処理。
- **regions** — StorageGRID システムに設定されているリージョンを判別するための処理。
- *** s3 *** - テナントユーザの S3 アクセスキーを管理する処理。
- *** s3-object-lock *** — グローバルな S3 オブジェクトロック設定に対する処理。コンプライアンスのサポートに使用されます。
- *** users *** — テナントユーザーを表示および管理するための操作。

処理の詳細

各 API 処理を展開表示すると、HTTP アクション、エンドポイント URL、必須またはオプションのパラメータのリスト、要求の本文の例（必要な場合）、想定される応答を確認できます。

groups Operations on groups

GET

/org/groups

Lists Tenant User Groups

Parameters

Try it out

Name	Description
type string (query)	filter by group type
limit integer (query)	maximum number of results
marker string (query)	marker-style pagination offset (value is Group's URN)
includeMarker boolean (query)	if set, the marker element is also returned
order string (query)	pagination order (desc requires marker)

Responses

Response content type

application/json

Code	Description
200	Example Value Model <pre>{ "responseTime": "2018-02-01T16:22:31.066Z", "status": "success", "apiVersion": "2.1" }</pre>

問題 API 要求



API Docs Web ページを使用して実行する API 処理はすべてその場で実行されます。設定データやその他のデータを誤って作成、更新、または削除しないように注意してください。

手順

1. HTTP アクションを選択して、要求の詳細を表示します。
2. グループやユーザの ID など、要求で追加のパラメータが必要かどうかを確認します。次に、これらの値を取得します。必要な情報を取得するために、先に別の API 要求の問題 が必要になることがあります。
3. 要求の本文の例を変更する必要があるかどうかを判断します。その場合は、* Model * を選択して各フィールドの要件を確認できます。

4. [* 試してみてください*]を選択します。
5. 必要なパラメータを指定するか、必要に応じて要求の本文を変更します。
6. [* Execute]を選択します。
7. 応答コードを確認し、要求が成功したかどうかを判断します。

テナント管理 API のバージョン管理

テナント管理 API では、バージョン管理機能を使用して無停止アップグレードがサポートされます。

たとえば、次の要求 URL ではバージョン 3 の API が指定されています。

```
https://hostname_or_ip_address/api/v3/authorize
```

旧バージョンとの互換性がない *_not compatible_* の変更が行われると、テナント管理 API のメジャーバージョンが上がります。以前のバージョンと互換性がある *_* の変更を行うと、テナント管理 API のマイナーバージョンが上がります。互換性のある変更には、新しいエンドポイントやプロパティの追加などがあります。次の例は、変更のタイプに基づいて API バージョンがどのように更新されるかを示しています。

API に対する変更のタイプ	古いバージョン	新しいバージョン
旧バージョンと互換性があります	2.1	2.2.
旧バージョンとの互換性はありません	2.1	3.0

StorageGRID ソフトウェアを初めてインストールした場合は、最新バージョンのテナント管理 API のみが有効になります。ただし、StorageGRID を新しい機能リリースにアップグレードした場合、少なくとも StorageGRID の機能リリース 1 つ分の間は、古い API バージョンにも引き続きアクセスできます。

古い要求は、次の方法で廃止とマークされます。

- 応答ヘッダーが「Deprecated : true」となる。
- JSON 応答の本文に「deprecated : true」が追加される

現在のリリースでサポートされている API のバージョンを確認します

サポートされている API のメジャーバージョンのリストを返すには、次の API 要求を使用します。

```
GET https://{{IP-Address}}/api/versions
{
  "responseTime": "2019-01-10T20:41:00.845Z",
  "status": "success",
  "apiVersion": "3.0",
  "data": [
    2,
    3
  ]
}
```

要求する **API バージョン**を指定してください

API バージョンは 'パス・パラメータ (/api/v3)' またはヘッダー ('api-Version:3') を使用して指定できます両方の値を指定した場合は、ヘッダー値がパス値よりも優先されます。

```
curl https://[IP-Address]/api/v3/grid/accounts

curl -H "Api-Version: 3" https://[IP-Address]/api/grid/accounts
```

クロスサイトリクエストフォージェリ（**CSRF**）の防止

CSRF トークンを使用してクッキーによる認証を強化すると、StorageGRID に対するクロスサイトリクエストフォージェリ（CSRF）攻撃を防ぐことができます。Grid Manager と Tenant Manager はこのセキュリティ機能を自動的に有効にします。他の API クライアントは、サインイン時にこの機能を有効にするかどうかを選択できます。

攻撃者が別のサイト（たとえば、HTTP フォーム POST を使用して）への要求をトリガーできる場合、サインインしているユーザのクッキーを使用して特定の要求を原因 が送信できます。

StorageGRID では、CSRF トークンを使用して CSRF 攻撃を防ぐことができます。有効にした場合、特定のクッキーの内容が特定のヘッダーまたは特定の POST パラメータの内容と一致する必要があります。

この機能を有効にするには '認証時に csrfToken パラメータを true に設定しますデフォルトは「false」です。

```
curl -X POST --header "Content-Type: application/json" --header "Accept: application/json" -d "{
  \"username\": \"MyUserName\",
  \"password\": \"MyPassword\",
  \"cookie\": true,
  \"csrfToken\": true
}" "https://example.com/api/v3/authorize"
```

true に設定すると 'GridCsrfToken' クッキーが Grid Manager へのサインインにランダムな値を使用して設定され 'AccountCsrfToken' クッキーが Tenant Manager へのサインインにランダムな値を使用して設定されます

クッキーが存在する場合は、システムの状態を変更できるすべての要求（POST、PUT、PATCH、DELETE）には次のいずれかが含まれている必要があります。

- CSRF トークンクッキーの値が設定された 'X-Csrf-Token' ヘッダー
- フォームエンコードされた本文を受け入れるエンドポイントの場合：フォームエンコードされた要求本文パラメータ「csrfToken」。

CSRF 保護を設定するには、を使用してください [Grid 管理 API](#) または [テナント管理 API](#)。



CSRF トークンクッキーが設定されている要求では、本文に JSON が必要なすべての要求に対して「Content-Type : application/json」ヘッダーも適用され、CSRF 攻撃からの保護がさらに強化されます。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。